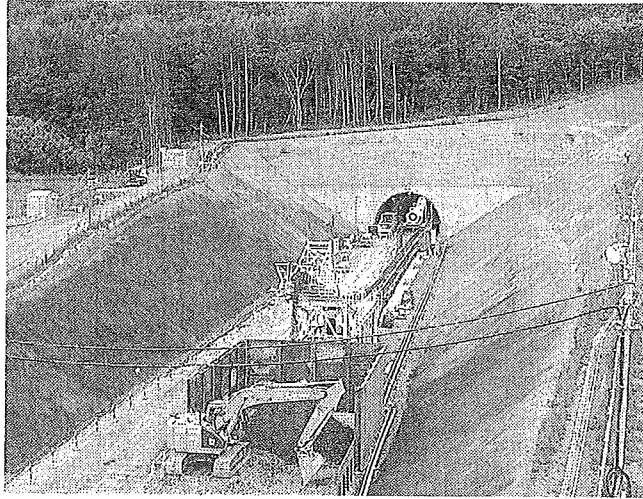


# 北海道建設新聞

## 新佐呂間トンネル 卓越した技術表彰

### 土木学会道支部の技術賞

【北見】土木学会北海道支部の2008年度技術賞に選ばれた、333号新佐呂間トンネルに対する授賞式がこのほど同支部で行われた。安全と



連続ベルトコンベア方式でのスリ坑外搬出で安全性、快適性を確保した(網走開建北見道路路事務所提供、05年8月時点)

新佐呂間トンネルは、岩盤崩落危険個所の回避や通行規制区間解消など目的とした、延長約6kmの佐呂間防炎のメイン工事。05年5月から掘削を開始した。

延長4110m以内で道内国道で2番目の長さとなることから坑内作業環境の悪化防止、作業の安全確保が必要となった。また、農業や漁業などを中心産業とする周辺地域への環境保全への配慮も求められた。

賞の選定では、先進的技術の採用や作業時の安全確保、環境保全などの面を大きく評価。連続ベルトコンベア方式によるトンネルズリの坑外搬出で排気、騒音、振動、車両との接触など安全性、

快適性を確保した。

このほか、分岐風管によるエアカーテンと集じん機に接続した伸縮風管を組み合わせ、切り羽で発生した粉じんを拡散させず吸引することで環境負荷を低減。掘削での濁水を浄水場と同様の砂ろ過システムで処理し、水質悪化の防止も図った。

佐呂間町若佐地区を襲った竜巻災害からの復旧も評価された。工事関係者9人が犠牲となり、工事関係書類などを散逸したが、施工体制の復旧を図り、わずか1カ月後に工事を再開。07年8月に貫通し、当初予定通りの工期で08年3月に完成させた。付帯工事を施し、09年3月に待望の供用開始となった。